**学習指導略案**

１　校種・学年　高等学校・第２学年

２　本時の目標

・大阪府と、修学旅行先として多い北海道・長崎・沖縄、首都東京との地域差を比較・検討できる

ようにする。データの見方について考える力を身につける

　 ＜本時の展開＞

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | **教師の活動・発言** | **生徒の学習活動・予想される反応** | **指導上の留意点** |
| 導入 | ・「大阪と修学旅行先としてよく訪れる都道府県を比較して、生活文化の違いを考えてみよう。」 | ・住環境が違いそう。（緑が多い・空気がきれい・マンションが多い）  ・食生活が違う。 | ・各地域をイメージさせる。 |
| 展開 | ・教材データを提示する。  「都道府県別一世帯当たりの支出金額・購入総量」表を示す。  ・グループごとに４つの地域に特徴的な食品・物品について着目し、グラフ化させる。  ・地域別に表れた違いは、どのような要因によるものと思われるか、考えてみよう。  ・元のデータの特性も考える必要がある。例えば、地域別の物価の影響が無視されていたり、経済に乗らない自家栽培なども地方では多く含まれる可能性がある。 | ・多くの品目の中から、自分たちが関心のあるものを話題にしていく。  ＜例＞豆腐・もち・魚介類・豚肉の４品目に関心をもった場合  ・データをもとにグラフを作成する。  ・違いが何を表すか考える。  ○支出金額が多いものについては、  　その地域の名産品かどうかに関係があるのではないか。  ○地域によって物価が違うのでは  　ないか。  ○（沖縄では、）豚の自家飼育をしているところがあるのではないか。  ○（沖縄では、）魚を自分で獲っているところがあるのではないか。 | ・生活文化の違いについて考察するよう、助言する。 |
| まとめ | ・「データの見方」に留意するよう、  助言する。 | ・グループごとに発表する。  ・数字で表された地域差について、はじめに持ったイメージと異なるか。 | ・都道府県ごとに差のある項目に着目させる。 |







